

マテリアルゲート

新しいメモリ素材のラボ開設

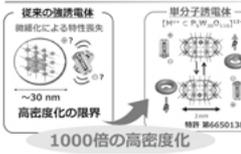
1・6億円調達、25年にコンデンサ市場参入へ

広島大学発ベンチャーのマテリアルゲート（中野佑紀社長）は6月、コンピュータメモリの消費電力を約90%削減できる新素材「単分子誘電体」のラボラトリーを同大学インキュベーションオフィス（東広島市鏡山3-10-31）に開いた。7月10日までにファンドから1億4000万円を調達し、資本金1000万円を受けるとなると、既に複数の大手メーカーと協業が決まり、まずは2025年までの薄膜コンデンサ（蓄電器）市場参入を計画する。

隣り合う2室計1000平方メートルを借り、「材料ラボ」と「デバイスラボ」にした。精製装置や合成炉、顕微鏡などを置く。同社は分子設計や特性のカスタマイズ、成膜や微細加工、デバイス設計などのコア技術を持つ。ラボと協力を合わせて現在の年間生産力は数万個。研究員とエンジニア各1人が新たに入社し、大学の協力者も含めスタッフ約10人。単分子誘電体を開発した同大学大学院の西原禎文教授が最高科学責任者を務めている。会社設立は23年6月19日で、資金調達によって300万円から7300万円に増資。資本準備金を含め1億4300万円となった。



Technology | 単分子誘電体



単分子誘電体は単分子でありながら強誘電体のような特性を持ち、分極の方向をデジタルの0と1に対応させることで情報記録材料に用いる。室温以上で特性が観測されることから実用化に適す。従来のメモリは、高速処理だが消費電力の大きな「揮発性メモリ」と、消費電力は小さいが処理速度の遅い「不揮発性メモリ」がある。メモリそのものだ

けでなく、コンピュータのCPU（中央演算処理装置）とメモリとの間のデータ伝送には多くの電力が使われている。単分子誘電体は微細化に極めて優れ、これを用いたメモリは従来の1000倍近い高密度化を実現。約90%の消費電力削減が期待でき、環境負荷低減の面でも訴求力がある。

25年までに展開を始める薄膜コンデンサを足掛かりに、28年までにFERAM（強誘電体メモリ）、32年までにDRAM（揮発性の半導体メモリ）、40年までにNAND（SDカードやフラッシュメモリなど）市場への参入を図る。全てのメモリ素材に代替可能で、ライセンス供与などを通じて1兆円規模の世界市場を狙う。広島県が時価総額10億人以上へと急成長するような企業の創出を目指す「ひろしまユニコン10」プロジェクトで、23年度の最優秀賞に選ばれた。

バイオベンチャーのミレテル 腸活サポート検査サービス

広島大学発バイオベンチャーのミレテル（南区出汐1-2-10、加藤俊也社長）は6月21日、腸活サポート検査サービス「わたしの腸活サポートチェック」を開始した。検査キット購入から結果報告までLINEで簡単に完結する仕組み。

ウェークリー・インフォメーション
Weekly In 広島 平和通り
 TEL 0120-985-668

早期がん検診は、半日で済む時代。
 会員制「全身検診」サービス
HIROSHIMA MJ CLUB
 広島MJ倶楽部 TEL:082-253-3538
 広島市西区横川新町8-21 広島MJ倶楽部
 わたしたちは、医療法人社団公に会 横殿順記念病院が運営するメディカルサロンです。

青森県弘前市若木地区で行った健康増進プロジェクトのビッグデータに基づいてテクノスルガ・ラボ（静岡市）が解析する。日本人の同世代の平均値と比べた腸内総合評価や有用菌量、腸年齢、自分の腸内フローラ型を解説。関連のある「免疫・感染防御」、「こころの健康状態」、「肥満・ダイエット」、「美容」、「お通じ」、「長寿」の6項目の健康度も3段階で示す。健康経営企業の従業員サポートツールとしての需要も想定する。

商議所が11月8日開催 カルビー社長の講演会

広島商工会議所は11月8日午後2時から、菓子大手カルビーの江原信社長を招く特別講演会「カルビーが目指す未来」をANAクラウンプラザホテル広島で開く。

広島発祥の同社は6月末、佐伯区に建設中だった「せとうち広島工場」を完成し、2025年1月に稼働予定。37年以降に広島みやこ工場（廿日市市、旧広島工場）の移転集約も計画する。昨春に社長に就いた同氏が経営戦略、経営の考え方を話す。無料、定員先着250人。TEL 082-2222-6651。